

沖縄を担う幼児児童生徒の人材育成に取り組む

沖縄県立総合教育センター

学校支援総括 平良 淳

野村総合研究所とオックスフォード大学のオズボーン准教授らとの共同研究によりますと、あくまで技術的な代替可能性としながらも、10年から20年後に、今、日本で働いている人の約半数の49%の職業が、機械や人工知能(AI)によって代替することが可能だとする分析結果が2014年に発表されました。

アメリカにおいては、2011年に小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くとの予測がなされるなど、雇用の状況は大きく変わろうとしています。このような、厳しい経済雇用情勢が家計に影響を与えているほか、核家族化や少子化の進展による子育て家庭の養育力の低下、地域のつながりの希薄化による子育て支援機能の低下など、子供の育ちや子育てをめぐる社会的、経済的な環境変化にどう対策を講じていくのか、教育の大きな課題であります。

平成19年に改正された学校教育法第30条に、「・・・生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」とあります。つまり、学力とは、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力』、『学習意欲』の3つの要素を高めることである」ということができる。この3要素を偏ること無くバランス良く育成することが、学力向上に

つながるとされ、それらを高めることができる、「アクティブ・ラーニング型授業」に今注目が集まっています。また、「アクティブ・ラーニング型授業」は「深い学び」につながるとして、ハーバード大学などで研究され、今や世界的に導入されている授業形態です。

去る2月4日(土)に本センター主催の研究発表会を開催しました。本センター調査研究事業の柱であるプロジェクト研究において、「『確かな学力』の育成」をテーマに「学びに向かう集団を育成する取組を通して」をサブテーマにした研究の成果報告を行いました。内容的には、昨年度取り組んだ「探求型授業づくり」の成果を踏まえ、中学校の支援に重きを置いたものです。この探求型授業は高次の「アクティブ・ラーニング型授業」とされ、そこでは、「確かな学力」を育むためには、個々の主体的なかかわりが能動的な学びを生み、深い学びへとつながっていくとされています。その能動的に「関わり」をもととする「学びに向かう集団」が重要であるとの考えが、今回のプロジェクト研究の内容です。

県教育委員会でも、次年度から新たな学力向上推進プランとして、授業改善の6つの方策を打ち出しました。この方策を中心に、学校・家庭・地域・行政機関等が一体となった具体的な取組を行うことで、本県の幼児児童生徒が、自らの人生を主体的に切り拓いていくことができるよう「確かな学力」の向上を目指す取組をしていきます。

***** もくじ *****

●巻頭言「沖縄を担う幼児児童生徒の人材育成に取り組む」	学校支援総括 平良 淳	-1-
●平成28年度「プロジェクト研究」について	～教科研修班～	-2-
●平成28年度第2回特別講演会について	～教育経営研修班～	-3-
●成果を認め合い、自信に！沖適連活動展示報告会		
●地域へ出向く「平成28年度 おもしろ科学教室」	～理科研修班～	-4-
●自主講座「小学校理科講座」「技術・家庭科」の様子		
●インクルーシブ教育システム先進校視察について	～特別支援教育班～	-5-
●学校における合理的配慮普及推進セミナー実施報告		
●タブレット端末の活用 ●県立学校教育用ネットワークサーバー更新事業について	～IT教育班～	-6-
●新たな分析機器導入による研修の充実 ●平成28年度導入「植物工場」紹介	～産業教育班～	-7-
●後期・1年長期研修研究報告会 ●研修を終えて ●センターの所歌ができました！		-8-
●平成29年度センター事業説明会の案内		

平成28年度「プロジェクト研究」について

本センタープロジェクト研究委員会では、平成21年度から「確かな学力」を育成する取組を調査研究事業の統一テーマとして掲げ、出前講座を中心とした学校支援プログラムの充実を図ってきました。特に、プロジェクト研究は調査研究事業の軸として、学校現場の課題を多面的に検討し具体的な形で提案していくことが重要な役割となっています。

今年度は、昨年度のプロジェクト研究において提案された「探究型授業づくり」を受け、より「主体的・協働的な学び」を進めていくことに着目しました。そこで、研究のサブテーマとして『「学びに向かう集団」を育成する取組』を掲げました。このテーマには、主体的で協働的な学びを進めていく姿として、児童生徒が学習意欲を高め合う「学びに向かう児童生徒集団」と教師が協働して授業力の向上を目指す「学びに向かう教師集団」の双方がイメージされています。

このような「学びに向かう集団」を現場に具現化していくためには、「学びに向かう」ことの特質や意義、「集団」の機能、それらを働かせた児童生徒集団の姿、指導改善を図る教師集団の姿、センターが学校現場に発信する具体的な手立て等多くのことを検討しなければなりません。そこで次の7点を研究内容として設定し、探究を進めました。

- 「確かな学力」を育成するプロジェクト研究の取組を中心に、本センターの学校支援の歩みを振り返り、過去の提案を考察する。
- 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し全体的な考察を行う。特に「学びに向かう集団」の育成に関する項目に関して抽出して検討し、各学校における取組の要点をまとめる。
- 本県教職員の「確かな学力」の育成に関する意識、授業改善の視点を調査し、「学びに向かう教師集団」づくりの視点で今後の校内研修や授業改善の課題をまとめる。

○「学びに向かう集団」を育成する意義を確認するとともに、児童生徒が「学びに向かう」ことの理論構造を検討し、要点をまとめる。(表1は、まとめた内容の一部です。)

○「学びに向かう児童生徒集団」の検証として、学校現場に「主体的な学習」に向けた指導工夫の改善を提案し、その実践を考察する。

○本センター各班の視点で「学びに向かう集団」の育成につながる取組事例を探し、概要や留意点をまとめる。

○全体のまとめとして、本センターの学校支援の立場から提言する。

これらの研究内容について、具体的には、本センター過去7年間の調査研究報告書内容の考察、本センター夏期短期研修等に参加した合計2,030人の小・中・高職員に対する調査、平成28年度全国学力・学習状況調査の沖縄・全国・秋田比較と同3年間経年比較分析、所員学習会の開催、中学校3校の研究協力員による学習指導と検証授業の実施、17回(2月末現在)のプロジェクト研究委員会を実施しました。

その結果、「学びに向かう集団」づくりの取組として(ここで、詳細を記述できず残念ですが)、

- 「確かな学力」の保障に向けた自校課題の共有
- 各校の児童生徒の実態に即した授業改善
- 「学びに向かう児童生徒集団」を形成する自立的な学び手と協働的な学び手の育成
- 「学びに向かう教師集団」の形成と各学校の校内研修の充実

の4項目について提言することができました。

今後の課題の一つとして、次期学習指導要領を見据えた課題の共有化を図り、各研修講座等を再構築する必要が上げられます。そのためには、これからの学校支援の在り方として沖縄県教育委員会の「学力向上推進プロジェクト」を、総合教育センターの機能を発揮しながら協働で推進する研究(取組)が必要になってくると考えます。

表1 「学びに向かう集団」育成の要点

個々の主体性を育てる	個々の交流を促進する	学びの質的な向上を図る
i) 自分の考えに価値を持つ ・ 自分で考える ・ 自分で判断する ii) 学びの自己管理をする ・ 目標の設定と見直し ・ 学びの自己調整 ・ 学びの省察と自覚	i) かかわりを持つ ・ 共同の意識を持つ ・ かかわりへの能動性 ii) 対話する ・ 自分の考えの外化 ・ 他者等の考えの内化 ・ 自分の考えの修正や強化	i) 各教科の視点を持つ ・ 専門的な学習の深まり ・ 社会につながる広がり ii) 各教科を越えた視点を持つ ・ 汎用的な能力の育成 ・ 学習の基盤となる能力の育成 ・ 各教科が共通して育成を図る

平成 28 年度 第 2 回 特別講演会について

平成 29 年 1 月 11 日、本教育センター本館講義室において、「平成 28 年度県立総合教育センター長期研修必修講座第 2 回特別講演会」が行われました。

本講座は「明日を担う児童・生徒の教育に携わる教育関係者が、豊富な経験及び実践に基づいた講話を拝聴することで、今後の教育方策等に資する機会とする。」を目的としており、今回は講師に、京都府教育庁指導部高校教育課特別支援教育アドバイザー、後野文雄先生をお迎えし「特別支援教育の視点を踏まえた学校組織マネジメント」の演題で講演をしていただきました。

児童生徒の行動特徴把握、教育におけるユニバーサルデザイン、そして組織的な指導体制構築のあり方等について、御自身の豊富な経験や脳科学の視点を交えた、具体的で分かりやすく、非常に興味深い内容の講演でした。

研修員の振り返りからも、本講義に対する満足度の高さが窺えました。以下は感想の一部です。

「これまで授業を進める上で、困難を感じていた部分や、疑問に感じていた部分の解決の糸口が見えたような気がしました。子どもの見取り方は教師のアンテナがとても影響するので、その見方、子どもとの関わり方のヒントを頂きました。現場に戻った際、子ども達への声かけの仕方をもう一度考えようと思います。」



第 2 回特別講演会の様子

「特に姿勢から見えてくる生徒の特性については興味深く聞かせてもらいました。本校はいわゆる支援の必要な生徒が多く在籍しているので、現場に戻った時、今日話をして頂いたことを活かしていきたいと思います。」

「印象に残っている言葉は、『すべての子どもを支えてこそ学校である』です。今年度教育センター研修での検証を通して、どうしても学習意欲の向上が見られない生徒がいたのを、『困った子ども』と感じていましたが、『困っている子ども』だったことに気づかされました。もっと子ども側の視点から学習上の課題、生活上の課題に気付けるように教科や学級での指導の中で、しっかり生徒を見ていきたいです。」

成果を認め合い、自信に！ 沖縄適連活動展示報告会

県内 13 カ所の適応指導教室が加盟する沖縄県適応指導教室連絡協議会（会長玉城哲也所長、以下沖縄適連）では、教室担当者向けの研修や講演会、定期的な情報交換会や児童生徒向けの体験活動等を行っています。

1 月 18 日に今年度、沖縄適連最後の大きな行事である「活動展示報告会」がセンター多目的棟にて行われました。この取組は適応指導教室に通級する児童生徒が、日頃の活動の報告や作品を展示することにより、お互いの活動の成果を認め合う中で自信を付け、日常生活の行動意欲を高めることをねらいとしており、平成 18 年度より継続開催しています。今年は 10 教室 40 名余の児童生徒が参加、引率や原籍校等の来場者を含め 130 名余が集いました。また、石垣市あやばに学級からも活動の様子が写真で紹介されたポスターが届き、会場に色を添えました。展示・見学の時間には、児童生徒が自ら作品の説明を行ったり、体験ブースで折り紙等を教えたりすることができました。また、それぞれの展示にメッセージカードを書き、お互いの作品や展示の良さを認めあう姿も見られました。閉会行事では代表児童生徒が、緊張しながらも堂々と自分の思いや他の教室の良さ、感謝の気持ちを述べることができました。実施後のアンケートからも「自分たちの展示を見てもらえてよかった」「いろんな人がメッセージを書いてくれて良かった」と達成感や有用感を感じる子が多く、準備や展示・説明を通して、それぞれが自信を持ち、学校復帰に向けた意欲を高めることができました。



地域へ出向く「平成 28 年度 おもしろ科学教室」
～与那原町・嘉手納町・伊是名村の子ども達へ実感を伴った理解の支援～

平成 11 年度からスタートし、今年度で 19 回目を迎える「おもしろ科学教室」は、身の回りの自然現象について、観察・実験、ものづくりを通して実感を伴った理解を図り、科学に対する興味・関心を高めることを目的としています。

平成 28 年度は与那原町、嘉手納町、伊是名村の 3 町村へ出向き、科学教室を実施しました。



物理分野での様子 (空気のちから)

分野	内 容	開催地
物理	空気のちから	与那原 伊是名
	光の不思議	嘉手納
化学	電池をつくろう	与那原
生物	草花のしおり作り	伊是名
地学	3Dメガネでステンドグラス	与那原 伊是名
初等	慣性の法則	嘉手納 伊是名
技術	ウッドマグネットをつくろう	嘉手納

3 町村では、保護者を含め 162 名の参加でした。各分野とも趣向を凝らした内容で、驚きの歓声があがったり、お土産いっぱい大喜びの子ども達の様子が見られました。「とても楽しかった」「次も参加します」という声も多く、良い体験を提供することができました。平成 29 年度も「おもしろ科学教室」を実施します。是非、親子そろってご参加下さい。

自主講座「小学校理科」「技術・家庭科」の様子
～教師の指導力向上を目指した実践的な教材・教具の紹介～

平成 28 年度の自主講座では、小学校理科講座 (全 11 回) に延べ 127 名、技術・家庭科講座 (全 4 回) に延べ 28 名の先生方が参加されました。教材・教具の紹介や授業づくり等の実践を通すことで、個々の先生方の指導力向上と、教科指導への意欲の高まりが見られました。

理科研修班では、平成 29 年度もこれまでどおり自主講座を実施します。実験や実習が苦手、理科が不得意という先生方でも気軽に参加できます。教材の持ち帰りもあります。是非受講してみてください。多くの先生

【平成 28 年度実施済 技術・家庭科】

回	月	日	領域	内 容
1	5	14	技術	ワークシートの作成資料及び指導と評価
2		18	家庭	手縫い・ミシンの基礎
3		20		調理の基礎
4		27		生活を豊かにする小物作り

方の参加をお待ちしております。

【平成 29 年度 小学校理科 予定】

回	月	日	領域	内 容
1	4	14	化学	問題解決 8 つのステップ 粒子の存在
2	5	12	生物	生命の連続性
3	6	9		生物の構造と機能
4	7	3	地学	地球の周辺
5	9	1	化学	粒子の保存性
6	10	6	地学	地球の内部
7	11	10	物理	エネルギーの見方
8	12	1		エネルギーの変換と保存

平成 29 年度の講座案内は、当センター HP に掲載しています。
内容をご確認のうえ、申し込みをお願いします。

<http://www.edu-c.open.ed.jp/>

インクルーシブ教育システム先進校視察について ～駒本小学校視察報告～

平成 28 年 10 月 26 日インクルーシブ教育システム先進校視察で東京都の文京区立駒本小学校に訪問しました。駒本小学校は、通常の学級、特別支援学級「むくの木」、通級指導学級「いずみ」が設定されています。特別支援教育に関する拠点校として位置付けられており、特別支援教育の推進を積極的に行うとともに、特別支援教室(学習教室)を核(文京区立小学校9校)とした文京インクルーシブ教育システムの構築に取り組み「どの子も伸ばす、駒本の教育」の実現を重点目標としています。インクルーシブ教育システム構築の実現のため、全職員が全授業で問題解決型の授業形態への授業改善を推進し、授業のユニバーサルデザイン化の5つの視点、「構造化」「視覚化」「焦点化」「共有化」「意欲化」を取り入れ、個別的な支援や配慮を確実にしています。具体的には、「構造化」では、1単位時間の学習の流れを定型化し、単元計画や

1単位時間の活動を示したり、ルールを明確にしたり、刺激量の調整を行ったりするなど、児童にとって分かりやすく授業に集中できる環境整備を行っています。

「視覚化」では、視覚情報と音声情報の併用により、分かりやすい指示や説明、学習内容の提示また、ICT機器を用いて、学習活動やポイントを視覚化し、効果的な情報の伝達を行っています。「焦点化」では、1単位時間の学習課題を1つに絞り、指示や説明を簡潔に行っています。「共有化」では、個々の学習を相互に共有・比較・検討することで、他者の考えを知り、学習の幅を広げ、深める活動を行っています。「意欲化」では、学習意欲を喚起するために授業の導入でウォーミング(国語では音読等)を取り入れています

駒本小学校では、校長のリーダーシップのもとインクルーシブ教育システム構築の推進がなされていました。

学校における合理的配慮普及推進セミナー実施報告 ～インクルーシブ教育システムの構築に向けて～

インクルーシブ教育システム構築に向けて、障害のある子供一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じて実施する「合理的配慮」についての理解を深めることを目的とし、平成 29 年 2 月 22 日、本センターにおいて国立特別支援教育総合研究所の原田公人氏を講師にお招きし、「学校における合理的配慮普及推進セミナー」を実施しました。

県内小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の職員、管理職、行政関係者を含め 170 人を超える参加があり、インクルーシブ教育システム構築に向けた取組の関心の高さが感じられました。

我が国における特別支援教育の理念を踏まえ、特別支援教育の現状、障害者の権利に関する条約への対応、諸外国の状況も含めた多角的な視点からの講義内容で、学校における合理的配慮の観点(3観点11項目)に基づき、保護者と丁寧に合意形成を図り決定していくことが大切であること、また、子供の発達年齢にだけ着目するのではなく、将来どのような力を付けさせたいかという視点を持ち、子供の可能性を追求しながら、生活年齢にあった必要な指導と適切な支援を考え

ていくことが大切であるということをご教授いただきました。参加者より「支援の必要な子にヘルパーを申請する前に、先生がその子のことでどれだけ悩み、一生懸命関わられるかということの重要性を伝えていきたい。特別支援教育は、教育の原点だと感じました。」

「合理的配慮の提供に向けて子どもの実態をしっかり把握すること、保護者との話し合い、特に説明責任は重要であることがわかりました。」「国立特別支援教育総合研究所のインクルDBを活用した研修会をしてみたい。」等の感想が寄せられました。



「学校における合理的配慮普及推進セミナー」の様子

タブレット端末の活用について

当センターのIT教育棟では、平成28年10月に研修室の機器更新において、次期学習指導要領を見据え、タブレット端末約80台を整備しました。文部科学省の「平成27年度学校における教育の情報化実態等に関する調査」によると、教育用コンピュータのうちタブレット端末の台数は253,755台と、前年度と比較し約1.6倍の増加となり、全国の学校における授業実践や研究が活発になってきています。

タブレット端末は、教師の教材提示だけでなく児童生徒の思考の可視化や共有にも役立つ機器です。例えば、ノートにまとめた自分の考えを撮影し、電子黒板やプロジェクタで提示して全体で共有したり、授業支援ソフトを組み合わせて、複数の児童生徒の画面を比較し、考えを深めたりすることができます。また、グループで画面を見せ合いながら対話することで新しい考えが生まれることもあります。タブレット端末を活用することで、子どもたちにどのようなことを身につけさせることができるのか、考えを明確にしていけることが必要です。

今後、主体的・協働的な学習での活用をめざし、タブレット端末の整備は進んでいくと思われます。タブ

レット端末の活用が学びの手立てとなるよう、その特性をふまえ、学習の場面や状況に応じて適切に活用されることを望んでいます。

本年度も「タブレット端末活用講座」を夏期短期研修や自主講座にて実施します。内容は基本的な操作・使い方から「授業のこの場面で、このように使うと学びがより深まるのでは？」という授業づくりまで計画をしています。

教師の学び合い、協働学習と一緒に参加しませんか。多くの参加をお待ちしております。



「自主講座 タブレット端末活用講座」の様子

県立学校教育用ネットワークサーバ更新事業について

平成14年度、IT教育センターが業務を開始して今日まで、全ての県立学校の教育用ネットワークの管理運営を担ってきました。これまでその時々に応じたネットワーク環境を構築し、様々なサービスを提供し、県立学校におけるICT教育を牽引してきました。

平成29年3月、このネットワークの拠点となるサーバ機器群の更新を完了し、翌月から稼働を開始しました。今回のサーバ機器群更新のポイントは、無線LAN環境とクラウドサービスに対応できる基盤整備です。昨今の無線LAN環境の普及によりタブレット端末の活用が広まっております。学校でも無線LAN環境の普及が進み、タブレット端末を活用した教育活動も活発になってきました。この無線LAN環境下でのタブレット端末の活用は、クラウドサービス(Office365)も絡めた活用を実践することで、効果的な教育実践が見込まれます。例えば、次期学習指導要領で唱われている主体的・対話的で深い学びの視点から考えた場合、生徒自ら問題を発見し、他者との協働により、新たな発見と深化は対話的な活動により生み出され、問題を解決することにより新たな問題の発見へ繋げることで、

深い学びが実現されます。この学びの実現に期待されているのが、様々なICT機器を活用した授業実践です。今回のサーバ機器群更新はこれらの授業実践の基盤となることを考えて更新しました。

反面、無線LAN環境下では、セキュリティ面での脆弱性が懸念事項として指摘されます。その対策としてセキュリティ対策用のサーバ台数を、これまでの8台から27台へ増設し、セキュリティ専門の技術者によるコンサルティングを通年で実施し、ネットワーク全体の通信状況を監視し、不審な通信を速やかに検知することで、素早い対処を可能にします。これまで以上に安心安全で安定したネットワーク環境の管理運営をめざすことで、ネットワークを利用する教職員、児童生徒が安心して活用できるサービスを提供することに繋がると考えています。

現在では学校現場でインターネットが活用できない環境を想像することは難しくなりました。無くてはならないインフラとして、意識せずとも活用しやすい環境構築を推進します。

新たな分析機器導入による研修の充実

～「原子吸光光度計」「超高速液体クロマトグラフ」を活用した生徒実習・職員研修～

分析システム研究室に昨年1月、新装置が導入され、今年度はその機器を活用した生徒実習や支援講座が行われました。

① 原子吸光光度計

原子吸光光度計は、生産した野菜等の作物や加工食品、水や土壌中のミネラル成分（カリウム・マグネシウム・カルシウム・鉄・マンガン等）の定性・定量ができます。

(生徒実習の事例)

- ・栽培実験したシイタケのカリウムの定量
- ・加工した乳製品のカルシウム分析
- ・清涼飲料水のカルシウム、マグネシウム定量



原子吸光光度計を活用した生徒実習

② 超高速液体クロマトグラフィー

超高速液体クロマトグラフィーは、化学的方法では分離の難しい化学構造のよく似た微量の物質の分離に有効な機器で、アミノ酸や糖類の分析ができます。

(職員を対象にした支援講座の事例)

- ・飼育した鶏肉や豚肉のアミノ酸を分析し、生産物の付加価値を検証する実験
- ・味噌などの発酵食品の旨味成分の分析
- ・果実に含まれるアミノ酸の定性



職員を対象にした支援講座

今回の機器導入により、機器の操作性や処理時間が向上し、より専門的な知識・技能の習得を図る生徒実習が可能となりました。今後の研究が楽しみです。

平成 28 年度導入！「植物工場」紹介

～植物工場竣工祝並びに琉球大学農学部との連携協定調印式について～

平成 29 年 3 月 17 日 (金)、植物工場竣工祝において、所長をはじめ多くの関係者のもとテープカットが行われました。植物工場は本県の教育機関においては、はじめての施設となります。また、今回既存のガラスハウス内に植物工場を県下ではじめて設置いたしました。

さらに、植物工場の運営にあたり、沖縄県と国立大学法人琉球大学との包括連携協定(平成 27 年 9 月 14 日)に係る事業の一貫として、琉球大学農学部と

沖縄県立総合教育センター産業教育班(産業技術教育センター)とで植物工場の利用に関する研究の連携を行う運びとなりました。式典には、琉球大学農学部副学部長の和田浩二教授、本県の植物工場研究の第一人者である川満芳信教授、上野正美教授が列席しました。今後この協定をもとに、地域社会や学校教育の活性化を目的とした研究活動を展開したいと考えております。



植物工場の様子



調印式の様子

平成 28 年度 後期・1 年長期研修研究報告会

平成 28 年度後期・1 年長期研修研究報告会が 3 月 14 日(火)～17 日(金)の 4 日間の日程で、本センターで開催されました。後期長期研修員 41 名、1 年長期研修員 11 名の計 52 名が各自のテーマに基づき、教育課題解決のための意欲的で熱意の伝わる報告を行いました。会場には関係学校校長や教諭の方々等多くの参加があり、関係各位の激励を受けた研修員一同、6 ヶ月または 1 年の研究成果を十分に報告することができました。



研修を終え



産業教育班
 県立南部工業高等学校
 教諭 新垣 朝光

1 年長期研修を終えるにあたり、総合教育センターの所長をはじめ、産業教育班の班長、主事の先生方や所属校の学校長、関係職員のご厚意により研修の機会を頂けたことに対し、深く感謝申し上げます。4 月の研修計画検討会では、報告書の書き方や仮説検証の進め方等、右も左も分からない研修員に親身になってご指導くださいましたこと、心より感謝しております。専門外の研修を受講することで、教員としての知見を広げることができました。また、産業教育班が一丸となって優勝したスポーツ交流会をはじめ、フラワーフライデー、夏の BBQ 等多くの思い出もできました。様々な行事やイベントを通して、研修員同士の仲も深まり、検証授業では互いに助け合い、無事に終わることができました。そして、研修の終盤には、研修員同士で研修報告書や発表用スライド等への情報交換やアドバイスを数多く貰いながら、共に成長することができました。今後は、研修で学んだ貴重な財産を学校現場に還元し、これからの教育活動に努めていきます。本当にありがとうございました。



教育経営研修班
 北谷町立浜川小学校
 教諭 米須 清博

後期長期研修員 41 名の門出の日は、期待と不安の心模様を表すような台風の襲来と重なりましたが、それでも厳かに入所式を迎えられたことが、昨日のように思い出されます。研修期間中は、忘れられない多くの出会いと貴重な経験をさせていただきました。教育講演会や専門講座を通して改めて教師としての使命感や研究と修養に努めることの大切さを再認識し「教師の仕事は、ステキである」という仮説を検証することができました。室長会主催の行事では他班との交流、室長同士の本音トークで人間性を磨くことができました。教育経営研修班 9 名は、縁合って仲間となり共に過ごす中で互いに教授し合い、校種や教科も超えて、真の同士になれたと実感します。経営班が一丸となり準優勝したスポーツ交流会、検討会や主事との話し合い、総括の優しい笑顔…。経営班での思い出は尽きません。今後は、研修を通して学んだことを児童・職員に還元していきたいと思えます。最後に、総合教育センター所長をはじめ総括・主事の方々、共に頑張った研修員、気持ちよく送り出してくれた本校職員関わった全ての皆様に感謝申し上げます。



センターの所歌ができました！

去る 3 月 2 日、本教育センターにて所歌制定式が行われました。教育センターの所歌は全国的にも珍しく、作詞を担当した諸見里明昭和薬科大学付属中学高校校長（前県教育長）からは、式の中で所歌「光かがやけ」の作詞に込めた本県教育への思いが語られました。作曲は本教育センター玉城哲也所長が担当し、両氏には感謝状が贈呈されました。



平成 29 年度 県立総合教育センター事業等説明会（御案内）

本センターが実施する学校支援、教師支援に関する事業等を周知し、理解を深めるとともに、各教育機関や学校現場との情報交換を行うことで、本センターの充実と発展に資することを目的に実施いたします。

実施日：平成 29 年 4 月 25 日(火) 場 所：県立総合教育センター本館